



TONY



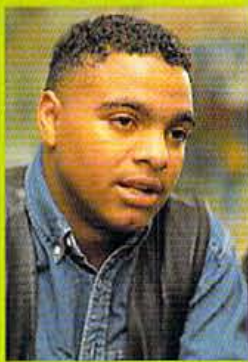
MAC

WATCH the NEWS INTERVIEW

HI-FIVE



TRESTON



SHANNON

ヴォーカル・グループ全盛期といわれる。JODECI、シルク、ボーイズ・II・メン、etc。若さとハイクオリティなコーラスを武器とした彼らのヒット・チャート争奪戦は、今後もますます加熱しそうな気配である。そしてその中には、既に大物の買録を漂わせるハイ・ファイヴもいた。

取材・文 本村紀子
撮影 橋本 和夫
協力 H.T.P 大阪、心斎橋クアトロ

「彼は有名なし、一緒にやるのはすごくクールなことだよ。僕らも楽しめたね。彼も日本でアルバムを出してるんだろ?」

「あなた達のようにアイドル扱いされがちなグループは、バックにちゃんとフレンドがついていて、ある種コントロールされているという印象がどうしてもあ

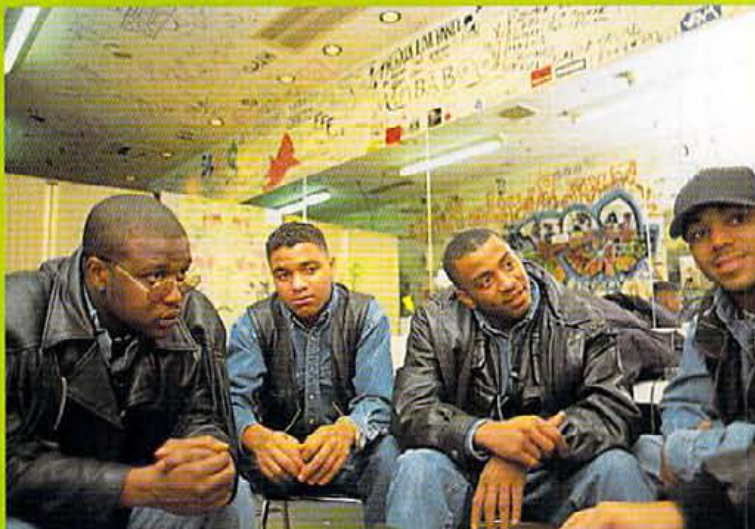
「今回のアルバムもいるんなプロデューサーを起用してますね。」

トレストン(以下T)「多くのスタイルを試してみたいんだ。いろんなサウンドに興味があるからね。複数のプロデューサーと仕事をするのも互いに意見が出し合えるからいいのさ。決まりきったサウンドで、オーディエンスを退屈させたくないんだよ。」

「その中でも、今回初めて一緒に仕事をしたJODECIなんかどうでしたか。」

T「彼は有名だし、一緒にやるのはすごくクールなことだよ。僕らも楽しめたね。彼も日本でアルバムを出してるんだろ?」

「あなた達のようにアイドル扱いされがちなグループは、バックにちゃんとフレンドがついていて、ある種コントロールされているという印象がどうしてもあ



「フェイスフル」は自分たちのことを歌っているようですね。ツアーで世界中を廻ってても、グループの女の子に遠いかげられても、僕が要するのは君だけさ。みたいな。あなた達にとつての「フェイスフル(忠誠)」って何?

T「なんで「フェイスフル」ってタイトルつけたかっていうと、うまく言えないんだけど(笑)。僕らの行く先々にファンがいる。彼女たちは、どこまでだって追

「この世界、素晴らしいグループが大勢いる。次々とシーンに登場してくる。誰もがトップを狙って必死だよ。常にトップを維持するためには、皆と違うことをしなきゃならないんだ。僕らだって同じさ。いつも新しいことにチャレンジして、他のグループとは違うサウンドを作ろうと努力しているんだよ。」

「アルバムタイトルにもなっている

「あ、スタイルは大きく変えたよ。これは僕らが大人になったことさ。いつまでも初期のバブルガムタイプの若いイメージじゃないかと思ってるね。年齢も上がるし、長い間演ってきた。根本にあるものは変わらないけど、でもいつまでも同じ場所には居られないんだ。服装も変えて、もっと自分たちを表現してゆくつもりさ。時間をかけてゆくりとね。長い間の仕事を続けてゆくりとのは大変なことだよ。でもやり続けていくしかないのさ。」

「ハイ・ファイヴのファンは違うと信じてるよ。一緒に成長していけたらいいと思う。僕らもファンも、僕らを感じてるプレッシャーはそんなじゃないんだ。たったひとつのプレッシャーは、自分たちのようなグループがどんどん出てきてるってこと。それも僕らのグループがね。これが一番大変だよ。ハードだね本当に。」

「前作もそうだけど、今回のアルバムも全部で9曲が入ってますよ。ね。これって何故? よっぽほとセレクトしてるの? ファンにとつてはどの足りないんじゃないかとも思うんですけど。」

T「ええ、9曲、9曲、9曲。そりゃ要するに、予算の問題なんだよ(笑)。レコード会社との関係とか? まあ、そのへんはいろいろあるわけだ。大切なのはヒット曲を出すことなんだよ。OH、そんな難しいこと聞かないでよ(笑)!!」

「今回のアルバムジャケットは、前作と比べて随分カジュアルなイメージだけど、何かの変化を表している?」

T「ああ、スタイルは大きく変えたよ。これは僕らが大人になったことさ。いつまでも初期のバブルガムタイプの若いイメージじゃないかと思ってるね。年齢も上がるし、長い間演ってきた。根本にあるものは変わらないけど、でもいつまでも同じ場所には居られないんだ。服装も変えて、もっと自分たちを表現してゆくりとね。時間をかけてゆくりとね。長い間の仕事を続けてゆくりとのは大変なことだよ。でもやり続けていくしかないのさ。」

「ハイ・ファイヴのファンは違うと信じてるよ。一緒に成長していけたらいいと思う。僕らもファンも、僕らを感じてるプレッシャーはそんなじゃないんだ。たったひとつのプレッシャーは、自分たちのようなグループがどんどん出てきてるってこと。それも僕らのグループがね。これが一番大変だよ。ハードだね本当に。」

「前作もそうだけど、今回のアルバムも全部で9曲が入ってますよ。ね。これって何故? よっぽほとセレクトしてるの? ファンにとつてはどの足りないんじゃないかとも思うんですけど。」

T「ええ、9曲、9曲、9曲。そりゃ要するに、予算の問題なんだよ(笑)。レコード会社との関係とか? まあ、そのへんはいろいろあるわけだ。大切なのはヒット曲を出すことなんだよ。OH、そんな難しいこと聞かないでよ(笑)!!」

「今回のアルバムジャケットは、前作と比べて随分カジュアルなイメージだけど、何かの変化を表している?」

T「ああ、スタイルは大きく変えたよ。これは僕らが大人になったことさ。いつまでも初期のバブルガムタイプの若いイメージじゃないかと思ってるね。年齢も上がるし、長い間演ってきた。根本にあるものは変わらないけど、でもいつまでも同じ場所には居られないんだ。服装も変えて、もっと自分たちを表現してゆくりとね。時間をかけてゆくりとね。長い間の仕事を続けてゆくりとのは大変なことだよ。でもやり続けていくしかないのさ。」

「ハイ・ファイヴのファンは違うと信じてるよ。一緒に成長していけたらいいと思う。僕らもファンも、僕らを感じてるプレッシャーはそんなじゃないんだ。たったひとつのプレッシャーは、自分たちのようなグループがどんどん出てきてるってこと。それも僕らのグループがね。これが一番大変だよ。ハードだね本当に。」

「前作もそうだけど、今回のアルバムも全部で9曲が入ってますよ。ね。これって何故? よっぽほとセレクトしてるの? ファンにとつてはどの足りないんじゃないかとも思うんですけど。」

T「ええ、9曲、9曲、9曲。そりゃ要するに、予算の問題なんだよ(笑)。レコード会社との関係とか? まあ、そのへんはいろいろあるわけだ。大切なのはヒット曲を出すことなんだよ。OH、そんな難しいこと聞かないでよ(笑)!!」

「今回のアルバムジャケットは、前作と比べて随分カジュアルなイメージだけど、何かの変化を表している?」

T「ああ、スタイルは大きく変えたよ。これは僕らが大人になったことさ。いつまでも初期のバブルガムタイプの若いイメージじゃないかと思ってるね。年齢も上がるし、長い間演ってきた。根本にあるものは変わらないけど、でもいつまでも同じ場所には居られないんだ。服装も変えて、もっと自分たちを表現してゆくりとね。時間をかけてゆくりとね。長い間の仕事を続けてゆくりとのは大変なことだよ。でもやり続けていくしかないのさ。」

「ハイ・ファイヴのファンは違うと信じてるよ。一緒に成長していけたらいいと思う。僕らもファンも、僕らを感じてるプレッシャーはそんなじゃないんだ。たったひとつのプレッシャーは、自分たちのようなグループがどんどん出てきてるってこと。それも僕らのグループがね。これが一番大変だよ。ハードだね本当に。」

「前作もそうだけど、今回のアルバムも全部で9曲が入ってますよ。ね。これって何故? よっぽほとセレクトしてるの? ファンにとつてはどの足りないんじゃないかとも思うんですけど。」

T「ええ、9曲、9曲、9曲。そりゃ要するに、予算の問題なんだよ(笑)。レコード会社との関係とか? まあ、そのへんはいろいろあるわけだ。大切なのはヒット曲を出すことなんだよ。OH、そんな難しいこと聞かないでよ(笑)!!」

WATCH the NEWS

レモン・ヘッズ

このツアーが終わったら、バンドは一時活動を休むんだ。

取材・文/早川雄志

通訳/中野嘉久

撮影/ハリス・アイ

協力/H・I・P大阪、クリエイティブマン・プロダクション



ボストンのギター・バンド、レモン・ヘッズが再来日。実力派のライブ・バンドであり国際的な注目を浴びる彼らの新作「カモン・フィール」は時代にコピない、カントリーでタフなアルバムであった。イヴァン・ダンド(Vo、G)、デイビッド・ライアン(Dr)、ニック・ダルトン(B)の3人の放つ魅力に接近すべく、今回、ドラマのデイビッドにインタビューした。

1 2度目の来日ですが調子はいい?

デイビッド(以下D)「初来日の時は全てが違うので驚いたんだけど、だんだん日本に馴染んできたよ。日本は機材やクラブやプロモーターがグレイトだし、オーディエンスもすごくスウィートだしね。ゆうべなんてライブの後に男のこに抱きつかれてキスされたんだ男にキスされるなんて体験初めてだ(笑)」

1 ツアーで世界的成功を実感する?

D「実は僕ら自身はよくわからないんだ。そりゃオーディエンスの数が減ったり反応が悪くなればすぐに気付くけど、毎日のことだし、少しずつ伸びていってるから成功した感じはないんだ」

1 ボストンに戻ってもそうですか?

D「レモン・ヘッズのドラマに似てるわねとか言われるよ(笑)ボストンの音楽シーンを代表するバンドのメンバーとして、今のボストン・シーンはどんなものでしょうか?」

D「ツアーのために」しばらくボストンに帰ってないから今の状況はわからないな。2〜3年前からボストンはシアトルみたいに注目されているようにけど、沢山の新しいバンドの中には良くないものが多いし。バッファロー・トムとかいいバンドもいるけど、ピクシーズとか解散しちゃったバンドもいるからなあ」



1 アルバムに参加しているジュリアナ・ハットフィールドもボストン出身だけど彼女の音楽に共通項は感じますか?

D「ないんじゃないかな。でもウェルウェット・アンダーグラウンドが好きとか、基本的に受けた音楽的影響は同じだし、そこから広がるといふ点では通じてるよね。それにポップスをやってるって点では同じだし、何より友達だからね」

1 7/10までこのツアーの終わりか?

D「昨年の7月に始まって、今年の8月に終わるんだ。日本の次はブラジルへ行くんだ」

1 8月?! ブラジルはリオへ?

D「とサンパウロとね。僕の母親はサンパウロ出身なので楽しみなんだ」

1 じゃあボサノバも好きですか?

D「大好きだよ」

1 レモン・ヘッズのサウンドにはボサノバの要素はありませんか(笑)?

D「(笑) うん、そうだよ。僕だけのバンドじゃないし、他のメンバーも色んな音楽が好きで聴いてるんだよね」

1 このツアーが終わり次第、次作のレコーディングというスケジュール?

D「ツアーの後には休暇をとるんだ。それがどのくらいの長さになるかはわからないけど」

1 一時的な活動休止ってコトで解散じゃないですよ?

D「この2年、ツアー! 録音! ツアー! の繰り返しだったんだ。これは一種のバンド活動の休止だけど、そんな深刻なものじゃないよ。ブレイク中は各メンバーはソロで動くんだけ。イヴァンはアコースティックでソロを出すだろうし、僕はフアズイというバンドに参加する予定。でも5日休みがあれば3日はフアズイで2日はレモン・ヘッズって具合の忙しい休暇になりそうだよ」

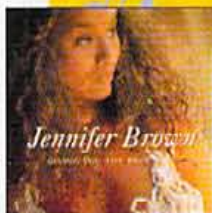
LEMONHEADS



TOWER RECORDS

今月の
これを
聴かないで
どうする!!

By 永岡正直 (京都店員)



JENNIFER BROWN / GIVING YOU THE BEST ¥1,890
レニー・クラビッツ、ミーシャ・パリスらが参加のデビュー・アルバム! スウェーデン発のニュー・ブリティッシュ・ソウルです。



RICHARD MARX / PAID VACATION ¥1,890
90年代のAORの代名詞と言っても過言ではないリチャード・マークの最新作。ポップに、そしてストレートに愛の世界を歌う!!

**WORLDWIDE
WEA MONTH**

3.17(木) - 3.31(月)

WEAの輸入CDレッド・タグ(¥1750)を¥200オフ、WEAの国内盤を2枚購入者に抽選でオリジナル・テレカをプレゼント。

**BACK TO SCHOOL
"BUY 3 CD"
SALE**

4.1(金) - 4.17(日)

レッド・タグのCD(¥1750)を3枚買くと、通常¥5250がなんと¥3990に! しかも1枚、2枚でも各¥1600のお買得プライス!
さらに輸入VIDEO全商品が¥300オフ!

京都店

河原町ビブレ6F Tel. 075-212-7058
OPEN: A.M. 11:00 - P.M. 8:00

大阪店

心齋橋アメリカ村 Tel. 06-211-2997
OPEN: A.M. 11:00 - P.M. 9:00 (土日のみ10:00 OPEN)

**TOWER
RECORDS**

L.A. CHICAGO BOSTON NEW YORK LONDON
SAPPORO SENDAI NIIGATA CHIBA
IKEBUKURO SHINJUKU SHIBUYA HACHIOJI
YOKOHAMA KAWASAKI NAGOYA
KYOTO OSAKA HIMEJI HIROSHIMA FUKUOKA

「テイク・ア・チャンス」
樋口アニー / ¥1,000円(税込) / 東芝E.M.



樋口「結局何だかんだ4か月位いたんですけど、NYの「マーズ」

取材・文 / 早川加奈子
協力 / 東芝E.M.



MUSIC/INTERVIEW

樋口 了一

インタビュー

幼児期の洋楽体験が作ったAORなポップス世界。

2ndシングル「テイク・ア・チャンス」が好評な樋口アニー。AORな手触りの、さり気ないポップスをクリエイトする彼は、幼稚園の頃にレッド・ツェッペリンを体験し、小学生にしてビートルズにのめり込んだ洋楽少年であった。そんな彼の音楽世界についてインタビュー。

「高校時代に軽音楽部に入ったのが音楽活動の始まり、ですか?」
樋口「8歳の時から洋楽は聴いてたんですよ。でも楽器を始めたのは、入部と同時にですね。ギタリストに憧れたんですけどジャンケンで負けて仕方ないからボーカルになったんです」

「その後「バンドエクスプロージョン」でのベストボーカル賞に至るわけですが、数奇な運命ですね。」
樋口「(笑) 思いも寄らなかったという意味ではそうですね」
「89年にアメリカに行かれて、ライブもされたんですよね。」
樋口「結局何だかんだ4か月位いたんですけど、NYの「マーズ」っていうディスコでライブをやりました」

「89年の「マーズ」とはすごい。ところでステイビー・ワンダーを切っ掛けにフラック・ミュージックに傾倒されて、実際フラック・ミュージックのバンドもされたそうですが、樋口さんの音楽にはフラックの影響というものが前面には出てませんか。むしろその辺を通過した山下達郎さんとか、大滝詠一さんの解釈ですよ。」

ICE with Katharine Hamnett

クールネスな音楽と、UKファッション・ショー。

ハスキーなV.O.に、宮内和之のギター、リズムがセクシーなボディータークを語らせる。盛り上がりみせたところへ、キャサリン・ハムネット

ソフィスティケートされたソウル・フィーリング、制御されたリズム、クラブ・サウンドのグルーブを、ポップスへとクールに浮上させたグループ、アイス。ギターの宮内和之とヴォーカルの国岡真由美の2人から



成る彼らは1月に2ndアルバム「ウェイク・アップ・エヴリバディ」をリリース、そのイベントとして大阪・心齋橋のオキシジェンでコンベンション・ライブを行なった。しかも、スタイリッシュな彼らに相応しい、ロンドンのデザイナー、キャサリン・ハムネットのファッション・ショーとのジョイント・イベントだ。その夜、DJウチダによるハウス・グルーブがフロアを揺るがしイベントがスタート。キャサリン・ハムネットの黒いレザー素材のミニのセパレート・ドレスで現われたV.O.の国岡真由美は、クラブなテイストを持ちながらも、成熟した大人の色気が漂う。

「94年春のファッションに身を包んだモデル達がステージ上でアイスのメンバーと共にダンス。クールながらアナログの躍動感を感じるステージは最高潮に達した。やがてDJウチダのチョイスしたレコードでフロアはクール・ダウン、イベントの幕は閉じたが、これからの日本のポップス界は、このアイスの活躍と共に

にソフィスティケート&グレイド・アップする。そんな予感がしたのであった。

●写真 / ハリーズ・アイ





1 番近くの同性とも言える母と娘だからこそ存在する、数々の感情や出来事を深い愛情で語ったエイミー・タンの世界的ベストセラーの映画化、「ジョイ・ラック・クラブ」。

サンフランシスコ。その日ジュンは、亡くなった母

葛藤、それから忘れ得ぬ出来事。母と娘の絆を描く話題作。

の代わりにジョイ・ラック・クラブの4番目の席に着いた。その名の通りジョイ(喜)とラック(運)を分け合おうと、仲の良い4人の女がマージャン卓を囲む会だ。メンバーは、わが子の置き去りや殺害、不幸な結婚や愛人だった母の自殺など、故郷中国でのそれぞれ筆舌に尽くしがたい悲劇をおって、非凡な人生を歩んできた女たち。ところがそんな母の思いが通じないアメリカ育ちの娘達。だが彼女たちが、自らの人生につまずいた時、母は初めてその過去を明かす。

原作者エイミー・タンとその母、祖母の衝撃的ともいえる実体験が、随所にちりばめられている「ジョイ・ラ



© Hollywood Pictures.

ック・クラブ」は、女性が意志を持って生きることを拒絶された時代の中で、あきらめずしたたかにたおやかに戦いつづけてきた女たちのリアルな実像を、圧倒的なスケール

と迫力で描き出し胸に迫る話題作だ。これまでのハリウッド映画にはないリアリティのあるアジア人像はもとより、女性にとっては誰もが覚えのある感情が心の琴線に触れ、母の過去と娘の現在が1つに繋がるラスト・シーンでは、静かな感動に涙すること確実。

監督は、誤った解釈を恐れ、映画化には始めは乗り気でなかったといわれるエイミー・タンを「この人なら」と確信させた、「夜明けのスローボート」での評価も高いウェイ・ワン。脚本のロナルド・バスは、ナレーションを多く入れる、8人のストーリーすべてを描く、エイミー・タンと一緒に脚本を書く、という3つの条件を満たすことで、映画化は難しいといわれた原作を忠実に再現している。また原作の魅力に惹かれて、製作総指揮にオリバー・ストーンなど一流の映画人達が集結しているのもこの作品の魅力である。キャストには、ヒロインのジュンに舞台出身の演技派ミンナ・ウェン、あの「ベスト・キッド・2」のタムリン・トミタ、「ラスト・エンペラー」のリサ・ルーなど実力のある女優揃い。またアンドリュー・マッカーシーも娘の夫役として顔を見せている。国や世代の差はあれど、母の精神世界から早く自立しようとする葛藤する娘の姿には、誰もが共感を覚えるのでは。母と娘はまさにライバルで親友、なのかもと考えさせられてしまう。

<4月上旬公開予定>

「ジョイ・ラック・クラブ」

話 題ばかりが先行して期待はずれが多いといわれながら、今だハリウッドの定石となっている人気女優主演ものやベストセラー小説の映画化。そこへ主演に「フック」以来2年ぶりの映画出演となるジュリア・ロバーツ、原作にベストセラー界の大型新人ジャン・グリシャムと、その定石を2つとも

「ベリカン文書」

ジュリアとデンゼルが走る。グリシャムのサスペンス・ミステリー。

踏んだ話題作「ベリカン文書」。とくればまたもや、とお思いになるのも無理はないが、これが侮れない。ジュリア・ロバーツ扮するヒロイン、頭脳明晰な法学生ダービー・ショウは、1晩のうちに2人の最高判事が暗殺されるという怪事件に興味を持ち、法律面



から独自に調査。その推理の結果を「ベリカン文書」というレポートにまとめあげる。ところが恋人の大学教授によって

それがワシントンに持ち込まれた時から、ダービーは立て続けに命を狙われることに。彼女が言いあてた衝撃の真実は。巨大な国家的陰謀とは。意外性に満ちたスピーディーな展開は、さながらジェット・コースター。今やベストセラー界の寵児グリシャムの作品を見事ヴィジュアル化した、見応えのあるサスペンス・ミステリーに仕上がっている。

なにしろ今回製作・監督・脚本にあたったアラン・J・バクラ。「ソフィーの選択」「推定無罪」など、小説の映画化やサスペンス作品に定評のあるそのバクラが、「ザ・ファーム」を読んだ時から惚れ込み熱望していたというのがグリシャムの世界。「ザ・ファーム」の映画化権がシドニー・ポラックへ渡っただけに、「ベリカン文書」に関してはその構想段階から映画化権獲得に着手。小説完成前にその権利を手に入れたという意欲作が本作品なのである。またそのバクラに口説き落とされて出演を決めたというジュリアは、いろいろあってか、しばらく遠ざかっていたスクリーンにこれで完全復帰の様子。これもカントリー・シンガー、ライル・ロベットの結婚で私生活も充実しているせい。スリリングな話の展開上、どうも板につかない法学生ぶりが気にはなるが原作者グリシャムが、彼女をイメージして書いたとも言われる勇気あるヒロインを、実に魅力的に演じている。その上、サポートする男性キャストが、また豪華。ともに陰謀の真実に迫るワシントンの新聞記者にデンゼル・ワシントン、ヒロインの恋人で最初に文書的重要性に気付く大学教授キャラハンにサム・シェパード、他にもジョン・リスゴウ、ヒューム・クローニンなどが顔を揃える。素材の良さを存分に生かした味加減もなかなかなのである。

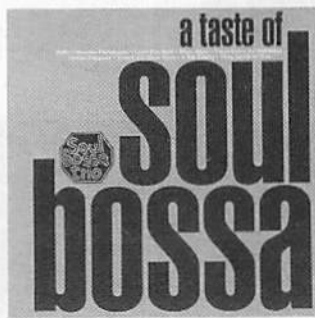
<4月中旬京都ロキシーにて公開>





SOUL BOSSA TRIO

80年代の後半、東京のクラブ・シーンから発信された大きな話題を振りまいた東京パノラママンボボーイズを覚えておいてだろうか。彼らの音楽は、現代にありながらも昭和30年代の古き良き時代のエクスタシーを追い求めるという、コンセプトが非常にユニークな存在であった。しかし東京パノラマ解散後、元メンバーであるゴンザレス鈴木はまた新たなユニットを結成した。その名が「SOUL BOSSA TRIO」である。東京パノラママンボボーイズの音を想像していると、見事に裏切られた。3月2日に発売されたファーストアルバム「a taste of soul bossa」では、それがたっぷり味わえる。東京パノラマへのポップさ、そして大衆性はそのままに。しかし、もともとはジャズドラマーのキャリアも持つゴンザレス鈴木のこと、よりジャジーで、またR & Bのエッセンスをも加えた、既成のジャンルではとらえられない音を新たにクリエイティブしているのである。彼の脇をかためるのはBASSのTOMOKIとPIANOのTOSHIというごくごくシンプルな構成。今後は関西でのライブもありそうだ。まずはこのファーストアルバムで心準備しておくべし。



↑「a taste of soul bossa」
soul bossa / 3,000円 (税込) / ビクターエンターテインメント株式会社

を聴け!

ゴンザレス鈴木の新ユニットがこれだ。

「ジャップ」創刊

新しい日本人はここから始まる。

ファッション、アート。それらを語るのに最も有効かつ美しい手段とは何か。注目のフォトグラファー伊島薫が編集人として名乗りを上げ、このほど創刊された雑誌「ジャップ」に、その答えは載っている。日本人の感性と視点からファッションやアートを捕らえ、世界に向けて発信してゆこうという試みで作られた本誌は、敢えて我々にとっての蔑称である「ジャップ」と名乗ることで、逆にアイデンティティの固定観念の枠をぶち壊すパワーを持った。「絶対に伝えたいことを、それを求める人に伝える」という編集ポリシーは、すべて伊島薫の意志によるところである。誌面に表されたディテールへのこだわりと、参加アーティストの豊富さ、しかもその誰もが各自の持味とはまた違った面を出した新しい表現法を試しているのが非常に興味深い。写真のクオリティの高さは言うまでもないことだが、その突き抜け具合が驚かされるのは何といってもこのページ「小泉今日子の死体」である。「小泉今日子、死体で発見！」の新聞風記事と、その横には樹海のどんよりとした空気の中、無造作に捨てられたトランクに入ったキョんキョんの死体の写真。青ざめて冷くなった肌と、空を向いてはいるが何も映さなくなった瞳が生々しい。意表をついた、という言葉だけでは片付けられない伊島のこの企画は、今後も様々な女優が登場する予定だとか。これまでネガティブな意味で使われてきた「ジャップ」ではあるが、本誌の創刊と共に、我々日本人の精神を解き放ち、精神的に自立した人間としての日本人が、世界に飛びたつという意味の合言葉

葉に変わったことを感じさせる。今後もどのような展開で見せてくれるのか、期待は未知数だ。

●「ジャップ」

編集人・伊島 薫
体裁・A4判変型
オールカラー・68頁
創刊号・発売中。
次号は季刊ペースで発行。
定価・1000円 (本体971円)
問・光琳社出版
075・441・6793



4名選べる素敵な人にめぐり逢いたい独身男女参加者募集! —非常に大好評中! 安心度100% 全国50都市開催



そろそろ本気で出会いたい。そんなあなたのための、近頃の素敵な出会いが潜むご機嫌なパーティ!!
TVでおなじみの「ザッツ、ウェディングベル」方式で、1対1のプロフィールカード交換方式で、たくさんの人と話すチャンスが。スタッフのフォローも抜群、皆が楽しめるフリータイム。楽しいゲームの後はプレゼントもあり!!最後のカップリングは全員4名まで書き込めるカード記入方式!!

<開催日時>

4/17 (日) 5/22 (日) 京都河原町VOXビル
PARTYSPACEp.m.1:00~3:00
♂4900円 22~37才
♀2500円 20~34才
男性のみ; 大卒又は年収300万以上又は公務員

パーティアルバイトスタッフ募集!

その他

電話予約必要
料金当日払い
女性3名以上申し込み限り
一人¥2000に割引!
ボールペン持参
男性ネクタイ着用
1人でも内気な方でも安心して参加できます。

♥グリーンスタッフ 0298-52-6969♥